

伝える大震災、つながる防災

災害メモリアルアクションKOBÉ

ACTION 2019

KOBÉのことば

参加無料

活動報告会

日時

2019.1.12[SAT]
10:00 → 13:00

会場

阪神・淡路大震災記念

人と防災未来センター

これまで「阪神・淡路大震災」を経験した世代が教訓と提言をまとめた「メモリアルコンファレンス・イン神戸（1996～2005）」、そして、その教訓を次世代に伝えるために「災害メモリアルKOBÉ（2006～2015）」を実践してきました。

2016年からこの先の10年を見据え「KOBÉのことば」をキーワードに「災害メモリアルアクション KOBÉ」という取り組みを開始しました。阪神・淡路大震災のつらい経験を二度と繰り返したくないという強い思いから、学んだことを次に活かすことができる形でつないでいこうという取り組みです。大震災から20年以上経った今だからこそ聞けることば。今しか聞けないことば。その個々の経験を未来へどう活かせるか。世代を超えて、共有し、話し合い、未来へつないでいく。今のKOBÉだからこそできるアクションです。

近い将来起こりうる南海トラフ巨大地震を見据えて、これから大震災を経験するかもしれないすべての人びとへ、防災の意識を継続させ、少しでも被害を小さくするために。「未災者」が大震災を知り、さらに「未災者」に伝え、つないでいく、新しいチャレンジです。

私たちはこれまでにないアクションにより、継続的な取り組みの検証と検討の場を通して、将来の被災者を減らします。

プログラム

※敬称略

10:00 開会挨拶

- 災害メモリアルアクションKOBÉ 企画委員会委員長
- 人と防災未来センター 震災資料研究主幹
- 京都大学防災研究所 教授 牧 紀男

10:05 活動発表

- 発表：①兵庫県立舞子高等学校
- ②関西大学 社会安全学部 奥村研究室
- ③兵庫県立大学 + 神戸市立渚中学校
- ④国立明石工業高等専門学校 D-PRO135°
(明石高専防災団) 開発チーム
- ⑤国立明石工業高等専門学校 D-PRO135°
(明石高専防災団) 地域連携チーム
- ⑥神戸学院大学 現代社会学部 社会防災学科 安富ゼミ

11:50 パネルディスカッション

「今、私が伝えたい??こと」

- コーディネーター：関西大学 社会安全学部 准教授 奥村 与志弘
防災デザイン研究会 GK京都 デザイナー ト部 兼慎
- グラフィックファシリテーション：TAGAYASU 鈴木 さよ
国立明石工業高等専門学校 5年生 多田 裕亮
- パネリスト：国立明石工業高等専門学校 D-PRO135°
(明石高専防災団) 地域連携チーム
神戸学院大学 現代社会学部 社会防災学科 安富ゼミ

12:55 講評・閉会挨拶

- 災害メモリアルアクションKOBÉ 企画委員会顧問
- 人と防災未来センター長 河田 恵昭

主催：人と防災未来センター、京都大学防災研究所

共催：京都大学防災研究所 自然災害研究協議会

企画：災害メモリアルアクションKOBÉ企画委員会

後援：兵庫県教育委員会/神戸市/神戸市教育委員会/朝日新聞神戸総局/読売新聞神戸総局/毎日新聞神戸支局/産経新聞社/神戸新聞社/NHK神戸放送局/ラジオ関西/神戸学院大学/明石工業高等専門学校/関西大学社会安全学部



災害メモリアルアクションKOBÉ

ACTION 2019

全体テーマ:

KOBÉのこぼ

「KOBÉ」とは、阪神・淡路大震災の被災地域全体と、災害の影響を受けたひと、そして災害後まちのために活動したひと、すべてを表現しています。

阪神・淡路大震災から24年、大震災を直接経験していない若い世代の人たちが、災害を経験した人々へのインタビュー、アンケート、交流事業などの活動を通じて、次世代に伝えるべき「KOBÉのこぼ」を紡ぎ、活かし、広げます。「過去・いま・未来」を見据え、世代を超えて活動する、最先端のアクションです。

兵庫県立舞子高等学校



私たちは災害時その人にとってベストな選択をし、後悔しないでほしいという目標を胸に活動しています。近年災害が多発し、災害に関心がない人々も災害を無視できない状況にあります。高校生のうちから防災に深く関わっている

私たちは、災害時どのような行動をとるべきか判断できます。そして、その学びを周囲の方々に役立ててもらおうべく、今後も活動に取り組んでいきたいと思ひます。

神戸学院大学 現代社会学部 社会防災学科 安富ゼミ



安富ゼミとしてこのプロジェクトに参加して3年目。先輩方が取り組んできたテーマ「阪神・淡路大震災の教訓は本当に伝わっているのか」を受け継ぎ、新たに新聞づくりに挑戦しました。防災の第一線で活躍する様々な分野や、

市井で頑張った方々に、阪神・淡路大震災の教訓についてインタビューし、それを分かりやすく後世に伝えられるように仕上げました。震災の記憶が残るような形にできたのではないかと自負しています。

関西大学 社会安全学部 奥村研究室



阪神・淡路大震災では、直接、地震で命を落とさなくても、大きな精神的ストレスと劣悪な生活環境によって失われる命があるという事実が初めて広く社会に認知されるようになりました。「災害関連死」です。あれからまもなく24

年、私たちの研究室では、その後の災害でも繰り返される関連死の発生状況を分析するとともに、当時の教訓は生かされているのかを検証しています。

国立明石工業高等専門学校 D-PRO135° (明石高専防災団)



地域連携チーム

私たちD-PRO135°は、地域と連携した活動をしています。明石市東二見地域の減災まちづくりに協力し、感震ブレイカーの設置・点検や、子供世代を対象にしたイベント「防災寺子屋」の企画・運営

を行いました。また、魚住まちづくり協議会の活動支援として、D-PRO135°が開発した防災ゲーム「RESQ」体験会を行うなど、防災活動のネットワークを広げています。



開発チーム

私たちD-PRO135°は、防災ゲームの開発・改良を行っています。製作した防災ボードゲーム「RESQ」の体験会での意見を基に、文言の修正や、地域に合わせたボードが作れるツール作りを進めています。

さらに、神戸高専の教員と開発した避難所運営ゲーム「チャレンジ!」のルール改善の協力もしました。高専生ならではの視点を活かして遊んで学べる防災ゲーム作りを進めています。

兵庫県立大学 + 神戸市立渚中学校



阪神・淡路大震災と阪神大水害を経験した方々の体験談や寄せられた写真などを誰でも閲覧することが出来るデジタルアーカイブ化することで、大災害の記憶や記録を次の世代に継承していくための活動を行っています。これら

の活動には兵庫県立大学の大学生・院生と渚中学校の生徒が参加し、体験談を聞き取ったりデジタルアーカイブを作成したりしています。

パネルディスカッションテーマ:

今、私が伝えたい??こと

防災は総合的で広い視野が求められる社会テーマです。

そんな広く、大きなテーマに魅力を感じてアクションしている学生たちの、防災を「伝えたい」、「活かしたい」の原動力や取り組みについて考えます。

新聞で伝える活動をするチームと感震ブレイカー設置の活動をするチームに登場していただき、「コミュニケーション」に焦点をあて、次の時代に「KOBÉのこぼ」が伝わる形を探ります。

この時間は、できるだけ会場のみんでディスカッションできる活発な意見交換の場づくりを目標にしたいと思います。

お問い合わせ:

阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター事業部普及課
〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1丁目5-2 西館6階

Tel: 078-262-5060 Fax: 078-262-5082

Email: hitobou-fukyuuka@dri.ne.jp

HP: http://www.dri.ne.jp/memorial_action_kobe

本研究は京都大学防災研究所共同研究(平成30年度一般研究集会30K-01)の成果によるものです。